

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

空欄補充・選択・記述・論述・計算

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数は昨年と同じ3題であり、設問数は昨年より少し増加した。また、論述量も倍増した。

出題の特徴や昨年との変更点

昨年は難度が高い考察問題が出題されたが、今年は標準的なものに戻った。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[I]	空欄補充 選択 論述	遺伝 刺激と反応	生物	(2)図1では、男女のいずれにも同様に言語障害が見られることから、常染色体上の遺伝子の変異であると考えられる。また、Aは左の個体と双子だが、性が異なることから、二卵性の双子であると考えられ、遺伝子型が必ずしも同じとは限らない。	やや難
[II]	空欄補充 選択 記述 論述 計算	個体群 生態系の保全	生物 基礎 ・ 生物	(1)②「種間の相互作用」について問われているので、種内の相互作用についての文章である(イ)、(ニ)は不適である。また、(ハ)の周期的な個体数の増減は捕食者-被食者の間に一般的に見られるが、「普遍的に見られる」わけではないので、不適である。	標準
[III]	空欄補充 選択 記述 論述 計算	生態系 進化と分類	生物 基礎 ・ 生物	(4)都市 K で見られるバイオームは、暖かさの指数より、照葉樹林である。したがって、暖温帯で見られる陽樹(種 A)と陰樹(種 B)をそれぞれ選ぶ。 (7)ヤシャブシはハンノキ科であり、根粒内に生息する窒素固定細菌と共生する。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基本的知識を確実にすることが大切である。遺伝子、細胞分裂・生殖、免疫、酵素、呼吸、神経、筋収縮、動物の行動、生態、進化・系統分類などさまざまな分野から出題されるので、どの分野も取りこぼさないようにしておこう。特に、遺伝子、神経、動物の行動、生態の分野は出題頻度が高いので、しっかり学習しておこう。また、よく出題されるような計算問題や、実験考察問題の演習をしておこう。